

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-540	16-104	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>		
<p>Low alcohol consumption increases the risk of impaired glucose tolerance in patients with non-alcoholic fatty liver disease.</p> <p>少量のアルコール摂取は非アルコール性脂肪肝患者における糖代謝異常リスクを増加する</p>		
<b>執筆者</b>		
Miyake T, Kumagi T, Hirooka M, Furukawa S, Yoshida O, Koizumi M, et al.		
<b>掲載誌</b>		
J Gastroenterol. 2016 Nov;51(11):1090-1100. Epub 2016 Mar 12.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
アルコール、糖代謝、非アルコール性脂肪性肝疾患、2型糖尿病		26971094
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b>		
<p>脂肪肝は糖代謝異常や肝臓のインスリン抵抗性と関連することが報告されている。しかし、脂肪肝は病因よりアルコール性と非アルコール性(NAFLD)に大別され、脂肪肝患者におけるアルコール摂取の糖代謝に与える影響については不明である。本研究は、脂肪肝疾患と空腹時血糖異常(IGF)との関連に与えるアルコール摂取量の影響を検討した。</p>		
<b>方法：</b>		
<p>2003年4月から2013年8月に2回以上の健康診断を受けた日本人7,905名(男性3,863名、女性4,042名、18-80歳)のうち、ベースライン(1回目の健康診断)でIGF(空腹時血糖値110mg/dl以上)でない6,804名(男性3,089名、女性3,715名)を解析対象とした。平均アルコール摂取量(g/週)により男性を5群(非飲酒、0-70g/週、70-140g/週、140-210g/週、210g/週以上)、女性を4群(非飲酒、0-70g/週、70-140g/週、140g/週以上)に分類し、各群における脂肪肝とIGF発症の関連を検討した。NAFLDのアルコール摂取閾値は男性&lt;210g/週、女性&lt;140g/週とした。</p>		
<b>結果：</b>		
<p>観察期間中IGFとなった者の割合は、男性/女性でそれぞれ、非飲酒者：7.3%/2%、0-70g/週：6.7%/1.7%、70-140g/週：6.4%/3.1%、140-210g/週(男性のみ)：9%、210g/週(男性のみ)：6.4%、140g/週(女性のみ)：3.2%であった。アルコール摂取量が男性0-70g/週(補正ハザード比[aHR]：2.808, 95%信頼区間[CI]：1.605-5.049, p&lt;0.001)、女性70-140g/週群(aHR：4.193, 95%CI:1.036-14.584, p=0.045)において脂肪肝はIGF発症との正の関連を認めた。一方、他の群では脂肪肝とIGF発症との関連は認めなかった。</p>		
<b>結論：</b>		
<p>NAFLD患者における少量のアルコール摂取はIGF発症の危険因子であることが示唆された。糖代謝異常および合併症の予防のために脂肪肝患者に対し、アルコール摂取量への注意を促し、特にNAFLD患者では、少量のアルコールでも控えるよう勧めることが必要である可能性が示唆された。</p>		